開会のご挨拶

木村 容子 先生

東京女子医科大学附属東洋医学研究所

お茶の水女子大学を卒業後、中央官庁入省（国家公務員1種）
英国Oxford大学大学院　修士課程修了
2000年　東海大学医学部（学士入学）卒業
2002年　東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助教
2007年　同研究所 講師
2008年　同研究所 副所長
2010年　同研究所 准教授
2019年　同研究所 所長／教授

日本東洋医学会学術総会のスポンサードセミナーとして例年開催しております本シンポジウムは、今回で30回目の開催となります。本シンポジウムの歴代のコーディネーターである寺澤捷年先生、後山尚久先生が続けてこられた「こんな時には漢方を」の基本コンセプトを継承しつつ、「漢方エキス製剤の上手な使い方 －困ったときの この一手－」と題し、新たな目線で現代医療へエキス漢方を取り入れる実践的な方法を、エキスパートの先生方によるディスカッションを通してご提案することで、先生方の明日からの実臨床に役立つシンポジウムを目指してまいります。

今回は、呼吸器内科、総合内科、婦人科、泌尿器科、胸部外科、耳鼻咽喉科の先生方にシンポジストとしてご登壇いただき、幅広い分野にわたる漢方エキス製剤による治療の実際についてご紹介いただきます。

第一部では「困った時のこの一手」と題して、日常診療で治療に難渋していた疾患に対し、漢方治療を併用することによって、より優れた効果や高い満足度が得られた症例をご提示いただき、日常診療における漢方療法の取り入れ方、文字通り漢方エキス製剤の上手な使い方について考えてまいります。

第二部では、「現代の口訣の構築」と題して、頻用処方の中から五苓散と半夏白朮天麻湯を取り上げ、有効例を通じて処方の臨床応用、使用目標、すなわち現代の“口訣”を導きます。